

震 災 の 記 憶

新地町の津波体験を後世へと語り継ぐ

福島県の最北端にある新地町で営んでいた旅館「朝日館」は、釣師・濱漁港で上がった新鮮な海の幸を提供し多くの宿泊客に愛されてきました。海岸の近くにあった建物は津波でさらわれ、歴史ある旅館を閉じることにした元女将は「あの日」の体験を多くの人に語り継いでいきます。

子どもの頃に聞いた 震え上がるほど怖い話

朝日館の元女将・村上美保子さんは、3時からのチェックインを控え準備中に大きな揺れを感じました。「これは津波が来る」と確信し、ご主人や近隣にも避難を呼びかけたものの返って来るのは「まさか津波なんてこないよ」という返事ばかり。

「幼い頃、三陸海岸に近い岩手県下閉伊郡



▲明治時代から続いた旅館「朝日館」の元女将・村上美保子さん。骨組みだけになった建物に朝日館の名前が残っていたのを見て「老舗旅館の意地を感じた」と言います



▲ボランティアで新地町を訪れた大学生たちに自らの経験を話す村上さん

岩泉町で暮らしていて津波の恐ろしさを折に触れ教えられてきました。その記憶から、とにかく高いところに逃げなければならぬと思ったのです。

昭和9年の三陸大津波では、高台にある神社の階段の何段目かが、逃げた人の生死の境になったこと、明治29年の時には水が引いたあとに高い木の枝に髪がひっかかって女性が亡くなっていたことなどを聞かされ、震え上がるような怖さとともに「津波は思いもよらないほど高くまどくる」ことが村上さんの心に刻まれていたのです。

鉄道の遮断機を通り抜け おにぎりを買って避難所へ

旅館を離れるのを渋るご主人を説得し、車で指定避難所を目指す時、鉄道の遮断機が行く手を阻んでいました。遮断機のすき間をようやく車で通り抜けて、沿岸を後に。途中のコンビニで散乱していたおにぎりを買い取り、高台の駐車場に車を入れた瞬間に「津波だあー」という声が聞こえました。おにぎりは偶然にも避難所に集まった人数分ありました。

「小さな頃に教えられた記憶が、私たち夫婦の命を救ってくれました。これからは、若い人たちに自分の経験を語り継いでいくことが、生き残った自分にできる恩返し」と村上さん。ボランティアで全国から寄せられる講演依頼に応じ忙しい日々を過ごしています。

募集しています

県では、東日本大震災の体験、記録、記憶、教訓などを募集しています。
県歴史資料館（電話 024-534-9220）まで情報をお寄せください。
いただいた情報については、あらかじめ日程を調整し、記録などの収集に伺います。



10/27(土)
10/28(日)

入場無料

郡山市民文化センター

(要入場整理券(応募締切 9/28(金))
※28日(日)のみ空席状況により当日券発行

郡山駅前エリア

会津総合運動公園

※会場周辺は混雑が予想されますので、公共交通機関、シャトルバスをご利用ください。

全国の祭りが福島に集結!国内外の多彩な地域伝統芸能をはじめ、震災を乗り越え、強い絆で守り抜かれたふくしまの芸能などが公演されます。彼らの力強い演技は「ふるさと」の復興の象徴であり、そのひたむきに演じる姿は、多くの人々に勇気と感動を与えます。

伝統芸能の体験コーナーや伝統工芸品の手作り体

験コーナー、ご当地グルメ&観光物産コーナーなどの“ふるさと”がもっと好きになる楽しいイベントもいっぱい!華やかなパレードも!ぜひ会場で、ふるさとの元気を体感してください。

事務局：県庁文化振興課 TEL：024-521-7154

福島 ふるさとの祭り

検索